

# Waseda Vision 150 芸術学校の将来構想の進捗状況報告

## 1. 2024 年度報告

### (1) 入試関連

－各学部・研究科における入試制度改革の実施状況－

#### ① 広報・学生募集活動推進

例年同様に、オープンキャンパスおよびナイトオープンキャンパス、製図レクチャー、模型ワークショップ等の少人数型の学生募集活動を対面で実施し、教員が志願候補者に直接会い、本校の特徴を入念に伝えるとともに、志願希望者と対話することで本校への志望の度合いを増すことができた。

また、新型コロナウイルス鎮静化後の学生獲得競争の激化に対応するため、インターネット上の広告掲出（Google のリスティング広告およびディスプレイ広告）を実施した。これにより、本校 Web サイトの PV 数、資料請求数が増えるなど一定の効果が得られた。更に、本校 Web サイト全体に関して、Google 等での関連キーワードの検索結果における本校の表示順位の上昇に向け、外部のコンサルを引き入れた対策ワーキンググループ（WG）を稼働させた。

一方、学内における広報活動として、これまでダブルスクール生や学部卒業後の本校進学者の定着を狙い、学部生への説明会（昨年度は教育学部、文学部、文化構想学部、人間科学部、国際教養学部の 5 学部）を実施してきたが、今年度は新たな取り組みとしてこれをキャンパス毎の実施とすることで、対象を理工 3 学部以外の全ての学部生とし、早稲田キャンパス、戸山キャンパス、所沢キャンパスをメインとする学部生全体へ案内を発信する等し、対象を拡大した。

更に、本校の存在をより多くの方に知っていただくことを目的に、大学全体のオープンキャンパス（2024 年 8 月 4 日）において建築家である本校教員がキャンパス内の建築物について解説する「建築ツアー」を実施した。事前メディア関係者向けに行ったプレツアー（内容は本番に同じ）も実施し、両ツアーの参加者より好評を博した。

#### ② 入試制度の改革

他校の募集要項等を収集し、検証した結果として、本校出願時の提出書類について合理化の余地があることが判明し、出願要件確認書類の定義を最適化するとともに、社会人出願者については職務経歴についても申告させることにより、選考および入学後の細やかな対応に繋げることとした。

#### ③ ブランディング

早稲田大学の専門学校であることによる、他の専門学校にはないブランド力をより強化すべく、建築関連団体（JIA、JCD 等）との連携体制を維持しつつ、あらたに一般社団法人 日本空間デザイナー支援機構（SSO）との間で連携に関する協定書を交わした。

また、例年同様に著名建築家等による建築講演会や学外展示を昨年と同様に公開性の高い会場にて開催し、昨年度を大きく上回る参加者があり、芸術学校の認知度向上を着実に推進することができた。

理工学術院との連携についても、これまで同様に兼担にて双方の科目を担当しているほか、主に Web サイト上の相互リンク等の広報面での協力体制を立案した。

### (2) 教育関連

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況－

#### ① カリキュラム「ASSEMBLE」の新たな展開と着実な運用

多様化する志願者のニーズに対応し、カリキュラム・ポリシーである「ASSEMBLE（アSEMBル＝多様な領域を集合して組み立てる）」の新たな展開として掲げた「テクノロジーデザインストラテジー＝芸術・技術・理論の融合」に基

づき、9つの教育テーマに付帯する技術テーマを連動させたカリキュラムを維持しつつ、引き続き新たな時代のニーズに沿ったコンテンツ（環境・IT分野）の拡充を図った。本年度はBIMに関するコンテンツを加えることができた。

また、一部の科目でオンラインやオンデマンドコンテンツ等を活用し、社会人やダブルスクール学生の効率的学習を支援するための試行を実施した。

なお、コンペ参加の経験値を積むことと国際的な視点で課題に取り組むこと等を念頭におき、演習科目内で続けてきた国際コンペへの応募について、今年度は2グループがショートリストに入るなど、徐々に成果が生まれつつある。

### (3) その他

#### ① 将来計画の新たな検討

中長期計画検討上の3つの重要項目、「入試広報の充実（人材確保）」「高度なカリキュラム実現」「国際化・グローバル化」を策定し、計画の推進を図ってきている。

#### ② 創造理工学部建築学科・同研究科建築学専攻との連携強化

学部との授業相互提供制度および大学院への推薦制度の活用を継続、芸術学校在校生への情報提供を積極的に行い、昨年度と同様に芸術学校出身の4名が創造理工学研究科建築学専攻へ入学した。

今後も以下のような新たな制度を加えるべく検討を継続していく。

- ・教員人事や組織上の交流等（ex. 双方の教員による連絡定例会議の実施や芸術学校所属教員の理工学術院客員教授嘱任無期化等）
- ・芸術学校教員による更なる大学院での研究指導の機会創出による芸術学校卒業生の大学院進学強化
- ・創造理工学部建築学科への芸術学校生（高卒）の2年次編入制度

以上

## 2. 2025 年度計画

### (1) 入試関連

－各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

#### ① 広報・学生募集活動推進

これまでの募集活動を継続しつつ、昨年度より始動した Web 施策を更に推進する。特に Google 等の検索エンジンにおける関連ワード検索時の表示順位の向上に向けた取り組み（SEO 対策）やインターネット広告の戦略的な展開により、主なターゲット層である社会人に焦点を当てた周知活動を実施する。

一方で、多くの高校生に利用されているポータルサイト「スタディサプリ進路」（リクルート社運営）への情報掲出および同社が提供する Web マーケティング機能を活用することにより、高校生や高卒生への周知活動についても改善する。また、将来の志願者獲得のため、建築に関心を持つ本学学部生への周知活動を拡大させる。

#### ② プレゼンスの向上

他の専門学校との差別化によってブランド力をより強化するため、本校が学校法人早稲田大学の中にあり、現役の建築家はもとより本学の教授陣が教鞭をとり、専修学校として「早稲田建築」に根差した実務家教育を行っていることを継続してアピールしていく。また、年々増えている本学の大学院創造理工学研究科への推薦入学者の実績を発信し、本校特有の進学プロセスを強調する。一方で、これまで取り組んできた建築関連団体等との連携体制の継続、著名建築家等による建築講演会および学外展示の積極的な展開に加え、卒業生組織である稲芽会との連携によって卒業生の活躍についても Web 等で発信していく。

これらの活動を推進することによって、本校のプレゼンスの向上を目指す。

### (2) 教育関連

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

#### ① カリキュラム「ASSEMBLE」の新たな展開と着実な運用

多様化する志願者のニーズに対応し、カリキュラムポリシーである「ASSEMBLE（アSEMBル＝多様な領域を集合して組み立てる）」の新たな展開として掲げた「テクノロジーデザインストラテジー＝芸術・技術・理論の融合」に基づき、9つの教育テーマに付帯する技術テーマを運動させたカリキュラムを維持しつつ、新たな時代のニーズに沿ったコンテンツ（環境・IT分野）を拡充し続ける。

また、オンデマンドコンテンツ等を活用し、社会人やダブルスクール学生の効率的学習を支援するための試行を実施する。

さらに、BIM（Building Information Modeling）や防災・安全といった社会の先端的ニーズを2025年度以降のカリキュラムに反映するべく、検討を開始する。

### (3) その他

#### ③ 理工学術院（創造理工学部建築学科・大学院創造理工学研究科建築学専攻）との連携強化

2025年度より創造理工学部・研究科建築学科教員と芸術学校教員による芸術学校連携協議会が始動する。本協議会において教育における教員の相互交流の活性化や芸術学校における建築人材育成について意見を交わし、有意義な内容については実際に反映する等し、さらに「早稲田建築」としての教育活動を色濃いものとしていく。また、創造理工学部建築学科との授業相互提供制度および大学院創造理工学研究科建築学科への推薦制度の活用は、その継続と発展を目指していく。

そして、芸術学校としては、他の専門学校にはないこれらのメリットを生かす機会を増やすため、文理融合型の建築人材育成に向けて、理工学術院との連携に新たな制度（編入制度等）を加えるべく以下の可能性を探っていく。  
・教員人事や組織上の交流等（ex. 兼任指導体制の更なる強化や芸術学校所属教員の理工学術院客員教授嘱任無期化等）

- ・芸術学校教員による更なる大学院での研究指導の機会創出による芸術学校卒業生の大学院進学強化
- ・創造理工学部建築学科への芸術学校生（高卒）の2年次編入制度

以上